

公立大学法人県立広島大学 大学院

総合学術研究科 学生募集要項

◇指導教員及び研究分野◇

保健福祉学専攻(修士課程)

令和2(2020)年6月  
県立広島大学

## 指導教員及び研究分野

### 【保健福祉学専攻 修士課程】

出願を希望する者は、指導を受けようとする教員と出願前に入学後の研究等について、必ず相談してください。下記の「指導教員」欄に記載のメールアドレスにメールするか、県立広島大学三原キャンパス事務部教学課を通じて連絡してください。

【県立広島大学 三原キャンパス事務部教学課】  
〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号  
電話 (0848) 60-1126 ファクシミリ (0848) 60-1136  
メールアドレス kyogaku@pu-hiroshima.ac.jp

#### 1 地域保健学・実践看護学分野

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
教授	青井 聡美 aoi@pu-hiroshima.ac.jp	看護技術を科学的に分析し、効果的な援助方法を実証、構築する研究を進める。また、生活習慣病の予防のための健康指標に関する疫学的研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護技術に関連する研究</li> <li>看護ケアにおける介助者、被介助者の身体的、心理的負担の検証</li> <li>看護教育における支援システムの開発</li> <li>生活習慣病と関連指標に関する研究</li> </ul>
教授	岡田 淳子 ojunko@pu-hiroshima.ac.jp	看護師がエビデンスに基づいたケア提供者となるために、看護技術の効果を客観的・論理的に検証する。さらに、看護技術の有用性を介入研究によって実証し、患者のQOL向上を目指す研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>清潔ケア技術の効果の検証</li> <li>医療関連感染減少のための患者手指衛生推進戦略の構築</li> <li>感染管理における患者のセルフケア能力向上のための研究</li> <li>在宅療養患者のQOL向上のための看護ケアの開発</li> <li>退院支援と退院調整の有効性に関する研究</li> </ul>
教授	黒田 寿美恵 kuroda@pu-hiroshima.ac.jp	病院・在宅など様々な療養の場におけるがん看護、慢性看護に関して、患者・家族の体験している現象や現象の成り立ちを探究することで、がんや慢性病とうまく折り合いを付けながら生活することを支援する看護実践方法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療を受けるがん患者の生活再構築を支援する看護実践モデルの開発</li> <li>がん患者の在宅療養を支える外来看護モデルの開発</li> <li>患者・家族の意思決定支援方法の開発</li> <li>慢性病患者のセルフケアを促進する看護実践モデルの開発</li> <li>地域包括ケアシステムの実現に向けた外来看護モデルの開発</li> </ul>
教授	津森 登志子 t-tsumori@pu-hiroshima.ac.jp	腹圧性尿失禁の予防と治療法開発に貢献する目的で、尿道閉鎖機構に関わる神経-筋の連関について実験形態学的手法によりアプローチする。研究手法は、ラットを用いて免疫組織化学や神経路標識法を適用し、蛍光顕微鏡や透過型電子顕微鏡下で形態解析を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>経陰分娩や閉経が尿道筋組織の組織構築に与える影響</li> <li>去勢が外尿道括約筋の組織構築に与える影響</li> <li>外尿道括約筋における性ホルモン受容体の発現様式</li> <li>陰部神経による外尿道括約筋の支配様式</li> <li>尿道平滑筋への自律神経支配様式</li> </ul>
教授	松森 直美 matumori@pu-hiroshima.ac.jp	生涯発達の視点から看護に用いられる概念や理論について実践的な探求を行い、自己の看護実践能力や専門性を高めるとともに、臨床及び研究への応用や普及の可能性について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護の場における実践、相談、調整、教育、倫理的問題のいずれかに焦点を当てた研究</li> <li>臨床における看護研究の指導方法</li> <li>子ども・家族が主体的に闘病するための療養環境、援助方法に関する研究</li> <li>描画法の看護実践への応用</li> <li>看護職者の倫理的看護実践と主体性の育成</li> </ul>

教授	安武 繁 yasutake@pu-hiroshima.ac.jp	地域の実態と住民の需要に見合った保健福祉活動を展開するための方法論並びに評価手法について実践的な研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民及び患者の保健行動に関連する要因の検討</li> <li>・山間部及び島嶼部における保健医療の課題に関する研究</li> <li>・地方分権の推進に伴う効率的な地域保健サービス提供体制</li> <li>・地域保健学の効果的な実地研修と実習プログラムの開発</li> </ul>
准教授	井上 誠 minoue@pu-hiroshima.ac.jp	地域で過ごしている精神障がい者、家族が抱えている問題解決策について検討する。また、看護師のストレス・メンタルヘルス対策を行うことで看護の質の向上を目指す研究・調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科における患者から受ける暴言・暴力による心理的な影響についての調査・介入研究</li> <li>・ストレス・メンタルヘルスにおける研究</li> <li>・多職種アウトリーチ（訪問支援）に関する検討</li> <li>・精神科新人教育体制に関する研究</li> <li>・ストレス・疲労による転倒予防</li> </ul>

## 2 総合リハビリテーション分野（運動行動障害学領域）

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
教授★	飯田 忠行 iida@pu-hiroshima.ac.jp	地域協働型保健福祉学の実験的研究を行う。生活習慣やストレスとうつ病、生活習慣と骨関連バイオマーカーとの関連について研究する。また、睡眠を客観的な指標（心拍変動や交感神経活性など）を用いて測定し、自覚的ストレス・ストレス関連バイオマーカーと経時的に関連付けて研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨粗鬆症の発症と関連する生活習慣・環境因子を明らかにするための研究</li> <li>抑うつ早期発見を目指した多角的アプローチによる症例対照研究</li> <li>ストレスと睡眠の質や量、健康感のメカニズムに関する生理機能からのアプローチ</li> <li>高齢者のアミューズメント機器の開発および検証研究</li> </ul>
教授	梅井 凡子	学生教育、職員教育などに関して教育方法について研究する。臨床現場へ応用するために技術的な教育内容に関しては、経験を共有し知識を獲得するSECIモデルを用いた検討を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生に対する教育方法</li> <li>新人教育システム</li> <li>技術的な内容を伝えるために教育方法</li> <li>知識共有のための手段</li> </ul>
教授★	小野 武也 ono@pu-hiroshima.ac.jp	運動障害の発生予防方法や治療方法の発展をめざし、筋電図をはじめ様々な生体工学的手法を用いた定量的評価方法を駆使して探究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関節可動域制限</li> <li>虚血再灌流障害</li> <li>関節運動の定量的評価</li> <li>廃用症候群</li> </ul>
教授★	金井 秀作 kanai@pu-hiroshima.ac.jp	視覚的観察やビデオ等を用いた簡易な動作分析と高額な機器を用いた精密な動作分析による領域にとられない“ヒトの動き”に対する効果判定を中心に研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療（リハビリテーション）系学生を対象とした教材の開発</li> <li>障害者の日常生活動作分析による理学療法に代表されるリハビリテーションの効果判定</li> <li>三次元動作解析装置に代表される運動学的分析手法を用いた福祉機器・用具の効果判定及び開発</li> </ul>
教授	川原田 淳 kawarada@pu-hiroshima.ac.jp	生体諸情報の無侵襲・無拘束・無意識計測手段や方法を考案するとともに、その研究基盤となる各種生体物性の基礎データの測定、収集、解析を行う。また、これらの知見から新しい健康維持・増進のための支援技術を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体情報の無侵襲・無拘束計測法に関する研究</li> <li>生体物性の計測と基礎的解明に関する研究</li> <li>在宅健康管理のための計測技術（ホームヘルスマニタリング）に関する研究</li> <li>熟睡度モニタの開発研究</li> <li>新しいヘルスプロモーション支援技術の開発</li> <li>在宅バーチャル言語訓練システムの開発</li> </ul>
教授	島谷 康司 shimatani@pu-hiroshima.ac.jp	ヒトの知覚・認知・運動の発達・学習に関するリハビリテーション研究を行う。その方法として、工学的手法・実験心理学的手法を用いてヒトの発達・学習（再学習）について科学的に検証し、リハビリテーションに応用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生児の診断支援と発達支援</li> <li>育児中の母親（養育者）のケアに関連する研究</li> <li>乳児の歩行発達の研究</li> <li>発達障がいの診断支援と発達支援</li> <li>障がい者のニューロリハビリテーション研究</li> <li>産業リハビリテーションに関連する研究</li> <li>高齢者の転倒予防支援機器の開発</li> </ul>
教授	田中 聡 s-tanaka@pu-hiroshima.ac.jp	理学療法的観点から、種々の機能・形態障害に対する評価・治療法の検討を行う。また、健康増進や介護予防のための身体機能評価方法の検討や健康科学、健康心理学に関する研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動障害予防や健康増進、介護予防のための身体機能及び健康科学的評価法の確立と効果的な運動方法・健康教育方法に関する研究</li> <li>臨床理学療法の評価ならびに治療効果に関する調査・研究</li> </ul>
教授	西上 智彦 tomon@pu-hiroshima.ac.jp	疼痛を随伴する症状ではなく、疾患として捉え、疼痛に関連した様々な基礎・臨床研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>急性・慢性疼痛（運動器疼痛、がん性疼痛、幻肢痛、CRPSなど）の評価及び介入研究</li> <li>中枢性感作、身体知覚異常、運動恐怖に関する研究</li> <li>Pain Neuroscience Educationの研究</li> <li>疼痛関連質問票の開発及び妥当性の研究</li> <li>地域在住者・勤労者における疼痛の調査及び介入研究</li> </ul>

教授	長谷川 正哉 m-hasegawa@pu-hiroshima.ac.jp	義肢, 装具, 医療福祉機器, 運動療法機器, 物理療法機器, 生活空間などの外的環境がヒトに与える影響について検討する。 また, 企業や自治体等と連携し, 新製品開発や既存製品の改良, 新規事業の展開をサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作解析を主とする介入研究</li> <li>・靴およびインソールに関する開発と研究</li> <li>・感覚を用いた運動指導に関する研究</li> <li>・運動指導や運動学習を効率化する手法の検討</li> <li>・物理療法機器の効果検証・開発</li> <li>・日用品の開発や改良</li> </ul>
教授	森 大志 mori@pu-hiroshima.ac.jp	脳による運動機能発現メカニズム また脳傷害後の機能回復メカニズムの解明を目的とした基礎および臨床リハビリテーション医学研究を行う。主にヒトを対象とし, 神経生理学的手法や脳機能画像法を用いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動機能と脳活動に関する研究</li> <li>・ニューロリハビリテーションに関する研究</li> <li>・運動学習と中枢神経系可塑性に関する研究</li> <li>・磁気刺激を用いた脳機能評価に関する研究</li> <li>・歩行運動制御に関する研究</li> </ul>

★生命システム科学専攻博士課程後期（生体機能制御学分野）指導教員

生命システム科学専攻博士課程後期への進学が可能です。（令和2年5月1日現在）

生命システム科学専攻博士課程後期の受験に関しては、当該専攻の学生募集要項を参照してください。

3 総合リハビリテーション分野（作業遂行障害学領域）

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
教授★	小池 好久 koike@pu-hiroshima.ac.jp	精神に疾患を持った方（主に統合失調症）へのリカバリーの実践へ向けた客観的指標の確立の研究を現在、数グループに分かれ行なっている。また、身体（主に筋力）面の低下や、生理面（主に自律神経系）の健全な回復の為の改善方法の研究も併せて行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物療法の理解（作用・副作用・複合作用）を基盤に置き、客観的指標を使用して、個別の薬物療法に沿った作業療法アプローチ法の開発。</li> <li>精神に疾患を持った方達の、身体面の問題点（筋力低下など）の最善な改善方法の開発。</li> <li>精神に疾患を持った方達への、リカバリーの為の症状悪化の予兆の気づきの為の客観的指標の開発。</li> </ul>
教授	古山 千佳子 ckoyama@pu-hiroshima.ac.jp	地域で暮らす障害児（者）を対象とした作業中心の作業療法の方法論と成果を実証的に明らかにすることを目的とした研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中心の作業療法の方法論と成果に関する研究</li> <li>作業遂行分析を用いた作業療法に関する研究</li> <li>特別支援教育における作業療法の有用性と可能性に関する研究</li> <li>教員と作業療法士の連携・協働に関する研究</li> </ul>
教授	西田 征治 s-nisida@pu-hiroshima.ac.jp	身体障害および老年障害者の生活機能を改善するための評価法や治療法を開発する研究を行う。若年性を含む認知症の人の社会参加、地域生活の質の向上を目指した調査、介入研究や認知症予防プログラムの開発研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の術後せん妄予防プログラムの開発</li> <li>脳卒中者に対する認知戦略や作業基盤の治療法の開発</li> <li>認知症者の作業遂行とウェルビーイングを改善する治療技術の開発</li> <li>認知症者の家族教育訓練プログラムの開発</li> <li>活動の質を評価するツールの開発</li> </ul>
教授	林 優子 yhayasi@pu-hiroshima.ac.jp	発達期に障害を伴う広義の発達障害（知的障害、自閉症スペクトラム、学習障害、脳性麻痺、奇形症候群など）が対象疾患で、神経生理学的な立場から、リハビリテーション及び連携による地域支援の有用性を評価する研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>広義の発達障害に対する早期療育の効果の研究</li> <li>発達障害児への継続的支援の有用性の研究</li> <li>発達障害児への保護者支援のあり方とその評価</li> <li>発達障害に対する早期療育を開始するための地域システム構築の研究</li> </ul>
教授	久野 真矢 hisano@pu-hiroshima.ac.jp	人-作業-環境の適合を図るために必要な相互関連に関する基礎的な研究および臨床的有用性に関する研究を行う。また、作業療法教育に関する研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知機能水準と作業適用の関連性および臨床応用に関する研究</li> <li>作業の習慣化に関する研究</li> <li>認知と行動変容に関する研究</li> <li>作業療法介入効果に関する研究</li> <li>作業療法教育に関する研究</li> </ul>
教授	藤巻 康一郎 fujimaki@pu-hiroshima.ac.jp	入院患者早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションの個別適正化プログラムに関する研究を行う。また、精神疾患の早期発見や予防に関する研究を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期退院・早期社会復帰に向けたリハビリテーションの個別適正化プログラムの新規作成に関する研究</li> <li>うつ病患者の早期発見や「うつ病予備群」への早期対応に関する研究。</li> <li>ストレスへの主観的認知に関する研究</li> <li>抑うつ・意欲低下の背景にある脳メカニズムに関する研究</li> </ul>
教授	吉川 ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp	作業を治療に用いてきた作業療法の伝統と実績を論理的に説明し、実証的に明らかにすることを目的とした研究を行う。作業科学の研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業と健康の関連性に関する研究</li> <li>作業の意味に関する研究</li> <li>作業遂行能力の測定に関する研究</li> <li>人と環境と作業の相互作用に関する研究</li> </ul>

★生命システム科学専攻博士課程後期（生体機能制御学分野）指導教員

生命システム科学専攻博士課程後期への進学が可能です。（令和2年5月1日現在）

生命システム科学専攻博士課程後期の受験に関しては、当該専攻の学生募集要項を参照してください。

4 総合リハビリテーション分野（コミュニケーション障害・脳科学領域）

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
教授	伊集院 睦雄 ijuin@pu-hiroshima.ac.jp	認知神経心理学的な観点から、言語や記憶といった認知機能のしくみやその障害メカニズムを明らかにするための基礎的研究と、その結果を利用した応用研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的単語認知に関する実験的および計算論的研究</li> <li>・「読み」の障害の発現メカニズムに関する研究</li> <li>・認知機能の加齢変化に関する研究</li> </ul>
教授	小澤 由嗣 ozawa@pu-hiroshima.ac.jp	通常の発語運動および発語運動困難（機能性、器質性、神経・筋原性構音障害 dysarthria, 発語失行）についての基礎・臨床的研究を行っている。特に日常コミュニケーション遂行度（了解度・満足度）の評価法の開発とそれにもとづく活動・参加レベルの支援方法について検討している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動・参加指標としての日常コミュニケーション遂行度測定法（CPM）の開発と有用性の検証</li> <li>・発語明瞭度・自然度、日常コミュニケーション遂行度の評価法及び改善に向けた支援方法の研究</li> <li>・機能性、器質性、神経・筋原性構音障害、発語失行のある人の構音運動学習</li> </ul>
教授	城本 修 siromoto@pu-hiroshima.ac.jp	音声コミュニケーションの障害に関する診断と治療技術について、言語病理学的側面から研究を行っている。特に音声障害の行動学的治療手技の生理学的なメカニズムの検討と運動学習の側面から治療効果を促進する学習要因を検討している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声治療手技の生理学的メカニズムに関する研究</li> <li>・音声治療の効果を上げる要因の検討</li> <li>・機能性音声障害の病態研究</li> </ul>
教授	原田 俊英 hartoshi@pu-hiroshima.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> <li>①脳血管障害、認知症、movement disordersなど神経内科疾患、老年疾患における病態学・リハビリテーション医学に関する研究</li> <li>②加齢やストレス・音刺激・体位変換等の負荷による脳機能や自律神経機能の変化に関する研究</li> <li>③中高年女性における生活習慣病予防に関する疫学的・縦断的研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管障害、アルツハイマー病、パーキンソン病など神経疾患における精神・知的機能や運動機能の病態学的評価や治療的介入の効果判定</li> <li>・加齢や各種ストレス負荷・各種音源刺激・生活習慣に対する脳機能・自律神経機能・生体信号の変化に関する評価法・デバイスの開発</li> <li>・転倒予防に関するニューロモデュレーションによるフィードバック機構の解析</li> </ul>
教授	古屋 泉 furuya@pu-hiroshima.ac.jp	ヒトと動物の認知機能の測定。特に注意機能について比較認知心理学的な手方法を用いて種間の等価性と相違を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトとラットの持続的注意についての比較研究</li> <li>・注意機能に関する行動薬理的な研究</li> <li>・コミュニケーションに関する進化心理学的な研究</li> </ul>
教授	矢守 麻奈 myamori@pu-hiroshima.ac.jp	認知機能・発声発語嚥下機能の加齢性変化・障害をリハビリテーションの立場から研究を行い、障害機序の解明と、有効な障害予防・リハビリテーション方法の確立・普及を目指す。栄養障害と上記リハビリテーションの関連を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管疾患・神経変性疾患・頭頸部がん術後の音声構音嚥下障害とリハビリテーションに関する研究</li> <li>・認知・発声発語嚥下機能の加齢性変化や介護予防等に関する研究</li> <li>・認知・発声発語嚥下機能障害とリハビリテーション、代替栄養・水分摂取法についての情報普及の研究</li> <li>・安全かつ視覚的・味覚的に質の高い嚥下障害対応食の調査・開発 等</li> </ul>

4 総合リハビリテーション分野（コミュニケーション障害・脳科学領域）（続き）

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
准教授	佐藤 紀代子 kiyoko-y@pu-hiroshima.ac.jp	人のライフステージにおいて聴覚障害が生じた場合、聴覚障害の病態に即して必要とされる支援と介入方法に関する研究を行っている。特に、聴覚障害児者および関わる側のコミュニケーション行動を分析し、コミュニケーション支援の側面から支援方法の確立・普及について検討している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害児者のライフステージにおける支援ニーズと支援スキルに関する研究</li> <li>・聴覚障害児者における会話方略の評価に関する研究</li> <li>・聴覚障害児者に関わる側に必要とされるコミュニケーション技術に関する研究</li> <li>・聴覚障害児者のコミュニケーションスキルと障害認識に与える影響に関する研究</li> <li>・人工内耳装用者および中等度難聴者の障害認識に関する研究</li> </ul>
准教授	田口 亜紀 akiaki@pu-hiroshima.ac.jp	コミュニケーション障害, 特に音声・嚥下に関する基礎研究や, 音声障害・嚥下障害の病態や治療に関する研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声障害の自覚的評価法について</li> <li>・音声障害に対する音声治療のエビデンスについての研究</li> <li>・発声のメカニズムに関する研究</li> <li>・嚥下障害の客観的評価方法の開発とそれによる嚥下障害の分析, 評価</li> <li>・嚥下障害の自覚的評価方法の検討</li> <li>・加齢と嚥下障害に関する研究</li> </ul>
准教授	渡辺 眞澄 masumi-w@pu-hiroshima.ac.jp	健常者と失語症患者の文発話および文理解過程のメカニズムに関する研究を行う。また, 失語症による文発話と文理解の障害の介入法についての研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症患者の文発話/文理解に関する研究</li> <li>・失語症患者の文発話/文理解改善のための介入研究</li> <li>・健常者の文処理に及ぼす単語の意味・統語情報の影響に関する研究</li> </ul>



5 ヒューマンサービス分野

職名	指導教員	研究分野の概要	主な研究指導テーマ
教授	金子 努 kaneko@pu-hiroshima.ac.jp	地域包括ケア構築におけるケアマネジメント・プログラムの評価を、マクロ・メゾ・ミクロの各レベルで検討し、その課題を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステム構築における中間ケア (Intermediate Care) 導入の効果評価研究</li> <li>ストレンクス・モデル活用のための研修プログラム開発に関する研究</li> <li>ケアマネジャーのスーパーバイズ機能育成のための事例検討会活用に関する研究</li> </ul>
教授	住居 広士 sumii@pu-hiroshima.ac.jp	介護の理論と実践により福祉を実現する介護福祉学の構築をめざす。介護福祉学の調査研究並びに研究教育から、尊厳のある生活のための介護モデルの理論と実践等について考察を深めて、研究論文を作成する。医療介護学と老年生活機能学から老年学に関する長寿活力社会科学を探求する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護モデルの理論と実践に関する研究</li> <li>介護福祉学の理論と実践に関する研究</li> <li>介護職と介護サービスの標準化と専門性に関する研究</li> <li>医療介護学の標準化と専門性に関する研究</li> <li>老年学に関する長寿活力社会科学研究</li> <li>老年生活機能学に関する研究等</li> </ul>
教授	田中 聡子 satoko-tanaka@pu-hiroshima.ac.jp	社会福祉の実践、政策、理論から問題を捉え、社会調査 (量的調査、質的調査) の方法を修得し、国内外の社会福祉政策理論研究を行う。社会的に立場の弱い人、生活困難を抱える人に対する地域を基盤にした理論や方法を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり家庭支援に関する研究</li> <li>格差と貧困を背景にした生活問題に関する研究</li> <li>子どもの貧困と社会的居場所に関する研究</li> <li>コミュニティケアの研究</li> <li>高齢者の社会的孤立</li> <li>地域包括ケアを問う研究</li> <li>不安定就労や生活困窮に関する研究</li> </ul>
教授	細羽 竜也 hosoba@pu-hiroshima.ac.jp	様々な社会場面でのストレスが人間の主観的・行動的反応に与える影響を研究する。加えて、ストレスによる生活困難状況に陥った人への心理社会的援助の方法についても研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルヘルスに影響を与える心理社会的要因に関する研究</li> <li>障害者 (児) の支援に関する研究</li> <li>ストレスに対する心理社会的ケアに関する研究</li> </ul>
教授	松宮 透高 yukitaka@pu-hiroshima.ac.jp	精神障害者の保健医療福祉問題をはじめ、メンタルヘルス関連問題へのソーシャルワーク支援について、当事者、家族、支援者へのエンパワメントや主体性尊重、支援システム構築などのアプローチに主眼を置いて研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルヘルス問題のある親による子ども養育世帯へのソーシャルワーク支援</li> <li>精神保健福祉士養成教育における指導者の「モデル性」に関する研究</li> <li>ACTプログラムにみる精神保健医療福祉専門職の子ども虐待対応機能</li> </ul>
准教授	大下 由美 ohshita@pu-hiroshima.ac.jp	社会構成主義的システムズ理論を土台として、保健医療福祉領域において取り上げられるさまざまな問題に対し、解決力を有するソーシャルワーク実践についての研究をする。基礎理論、評定論、介入技法論、そして効果測定論を柱に、それぞれが明確に体系化された、実践論の構築に向けた研究をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族システムの変容に焦点化した、教育機関、福祉施設等での人々の適応上の諸問題の解決法について指導する。</li> <li>多問題の事例に対する、問題解決のための評定法、介入法、そして効果測定法についての実践研究を指導する。</li> <li>コミュニティの構成員の問題解決を促す支援の理論、技法及び効果測定法について教授し、その研究法の指導を行う。</li> <li>これらの研究の水準を高めるため、海外の大学の研究者たちとの国際的な共同研究を通して、最前線のソーシャルワークの理論と実践法を指導する。</li> </ul>